

●絵本の時間にありがとうございました

「私の楽しみは日曜の朝のラジオ落合恵子さんの絵本の時間です。こんな言葉で始まります。

「一冊の絵本を開くとき、あなたの小さな旅が始まります。音楽は生きる力を与えてくれ、絵本も同じ力を与えてくれます。だから本を読んであげたい。絵本は子どもと女性のものと思うかも知れませんが、男性もそう、年齢制限なし、さあ、発車のベルが鳴っています。」

この日はベルギー生まれの人のが書いた「母さんはどこ？」です。

子どもが遊んでいました。経済的にリッチではないが、みんな幸せに暮らしていました。ところが戦争はずっと続いていた。爆弾が落ちた。みんなちりぢり。母さんはどこ？走り逃げる。隠れることしかできない。ときどき、たびたび泣いた。

想像してください。子ども時代を奪われている。大人社会の選択で子どもは危機にさらされている。ほうぼう探

3世代で農家を営んでいますが、生活がなかなか厳しくなり始めた昨年の秋、ようやくやる気になつたのか、息子夫婦が自分たちで見つけたトマトの契約栽培をやってみたいと言いました。説明会や講習会にも二人で参加し、今年の三月に資材品をかけ、ハウスに千二百本の苗を植えました。十七センチに育った苗を五月には畑に植え替え、何とか失敗しないよう夢中にがんばっています。そんな息子と嫁を見ていると、四人の子供の親らしくなつたなど、今までは親に寄り掛かってばかりいた息子夫婦がとても頼もしく思えました。

今は陰からそつと手伝い、口を出さない様にしています。

今年はお天氣にも恵まれ、順調に育ち、七月初めには収穫の予定です。今からとても楽しみです。

●息子夫婦にありがとうございます

会できました。こんな具合にほんの3、4分の時間です。耳から入る落合恵子さんのアルトの声が心地よく聞こえ、聞き入つてしまします。挿絵の紹介もあり、物語のイメージが膨らみます。これからもこんな楽しみ方を続けていきたいです。

●元気な義父にありがとう

老人会で聞いてきたのか、義父は十年前から友達の植木屋さんからお屋敷の植木の剪定に赤松があると松葉

時すでに遅しで、つづじ、藤と行く先々
で花が散つており、花より団子のバス
ツアーリとなつてしまひました。でも、
久しうぶりの義妹達との交流は改めて兄
妹愛を深め、本当に温かいものとなり
ました。

後日、近所の八百屋さんに立ち寄る
と、「ご主人さんが買物に見え、『今日、
家内は私の妹達と一緒に出かけてる
んだ。』と嬉しそうに話していましたよ。
今時めずらしい良い話ね。」
と言つて頂き嬉しくなりました。

●主人と一緒に義妹に
ありがとうございました

良いと思つたことは実行する。義父にはいつも教えられています。

●祝つてくれて
ありがとうございます

(横浜市/K・K)

ゴールデンウィークに義妹二人に主人と一緒に花見と食べ歩きをしました。うと誘われました。子供達が大きくなつて妹宅へ遊びに行くことも少なくなりお互いの忙しさに電話だけとなつてから十数年ぶりのお誘いでした。

当日は主人のお稽古の発表会でした。が、主人の熱心な勧めもあって、私だけの参加となりました。

ご主人を亡くした義妹宅に一泊し、カラオケやおしゃべりと楽しい前夜祭でした。

そして、いよいよ花見となりましたが、今年は

えが、もう一(二)の小包には
「おばあちゃん、ありがとう。
と添えられたカーネーションの鉢植え
とお菓子が入っていました。おばあちや
んに渡すとすぐ嬉しそうでした。
夜になると長男がみんなで食事に行
こうと近くのとんかつ屋さんに連れて
行つてくれました。おばあちゃんはビー
ルを飲み機嫌でした。

私達夫婦がおばあちゃんにさせても
らう事を、気付いたら子供たちが全部
やってくれていました。私にとつて何
よりの母の日のプレゼントでした。

調布市
Y · U

●友よ、
ありがとう

若い頃の不摂生がたたり、大病を患つてしまつた。

その後、退院はしたが下半身の衰えが顕著になり、歩行時に不安を覚えるようになつた。その為好きだった旅も諦めより他なかつた。

無念がる私の声を聞いた友が、

“ならば、これからは君の足となつて、行つた旅先の様子を伝えよう”

と、言つてくれた。

その彼には口を待てからうけ合ひ、

その彼らは中学時代からの付き合いで古稀を過ぎた今でも続いている。その後彼からは約束どおりに旅先での報告が、ほぼ月に一度の割で、はがきや、封書で届いた。

そこには旅先での山河や、農村、漁村などの写真や、イラストの他に、その土地の風土や、歴史、文化にまで触れた、文章が綴られている。その詳細な報告により、行かずに、行つた気分にさせてくれる友の思いやりに感謝せずにいる。

その、旅の出来事を詰め込んだ便りももう7年が過ぎた。どんなみやげにも勝る、この便りが何時までも続くことを祈りたいが、彼も老いてきた。
友よ、無理せずに、ゆっくりと歩いてくれ。
良き友に出会えたことは、幸せである
そして、友よ、「ありがとう」

●車をありがとうございます
(世田谷区/H・A)

●車をありがとう

壁度〇一〇每用三〇一〇三〇。每田可

健康のため毎朝歩いています。毎日何人かの人とお会いするので、あいさつをするようになると次第に顔なじみになります。

●蛙の鳴き声や栗の花に
ありがとう



本当にいいのかな?と申し訳なく思い、「いくらかで譲ってください。」
「あなたに乗って頂けるのなら、車も喜ぶでしょう。」
と譲つてくださりました。
思いがけないプレゼントにとても驚きました。感謝しております。

靈巖集

「ええ、それなら私が乗りたい。」
するとおじさんから信じられない言葉が
返つてきました。

「どうぞどうぞ、差し上げます。」

後日、お宅に頂きに行つたのですが、
車検も済み、丁寧に乗られていたようで、
とても状態の良い車でした。

本当にいいのかな?と申し訳なく思い、
「いくらかで譲つてください。」

と言つとおじさんは、
「あなたに乗つて頂けるのなら、車も喜
ぶでしょう。」

と譲つてくださいました。

思いがけないプレゼントにとても驚き
ました。感謝しております。

のかな?」と心配になり、次の日に何がありましたか?」と聞いてしまつたり。そんな他愛もない会話も楽しみの一つとなっています。

ある日、いつものように顔なじみのおじさんと話していました。「昨日、仮免が取れて楽しくて。」「そうですか。私はもう年なので、車を息子に譲ると言つたのですが、自分で持つてゐるからいらないと言われ、来月廃車にするんですよ。」と言つうので思わず、

●「出しありがとう

埼玉県
M・M

ほこりまじりの風が吹き、丁度我家の前が吹きだまりになります。

「ゴミ出しをどうするか近所で話し合った結果、

「『ゴミ出しの日は順番でやりましょう。』と言つてまとめてくださる方がいたので、順番にゴミ出しを行つていましたが、その方が引っ越しされてしまったので、誰もまとめてくれる人がいなくなってしまいました。

思えます。嫌な栗の花の臭いさえも懐かしく思えます。一年を重ねた今、周りをゆっくり見渡しながら、一日一日を楽しんで過ごしたいと思ってしまいます。蛙の鳴き声や栗の花にありがとう。

田に水を張る頃、たくさんの蛙が昼、夜と鳴いていました。蛙の鳴き声が喧しく思つたこともありましたが、今は栗林も、蛙の鳴いていた田んぼにも、小麦畠にも家が建っています。

この時期、蛙が鳴くのは当たり前だと思つていましたが、今は蛙の鳴き声すら聞こえません。あの蛙たちはどこへ行つてしまつたのでしょうか？

嫌な臭いの栗の花も見かけなくなりました。

【原稿をお待ちしています。】



【携帯 De ショット】

雨が上がり町は花の香りが溢れる。国際バラ新品種コンクールの入賞花の四季咲き大輪系のバラ

大月啓伸さんの出展作品で、作品名は『あおい月』。最盛期を過ぎて緑色の大輪の一部が黄ばんでいるが、見事で美しい花で来年も出合いたい。

- 携帯電話の方はQRコードから
 - パソコンの方は下記のURLから
<http://1039.seesaa.net/>
 - メールでのご投稿は…
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホーリックス総研・編集部